

平成20年度第2回射水市協働のまちづくり推進会議会議概要

□開催日時

平成20年11月28日(金) 午前10時00分～午前11時40分

□開催場所

中央図書館2階 多目的会議室

□出席委員

大泉征夫委員、奥田實委員、角田征夫委員、木村加代子委員、竹内一人委員、野村弘和委員、堀田紀子委員、山口花子委員
(委員10人中8人出席)

□事務局

宮川忠男副市長、橋本孝雄市長公室長、堀俊之市民協働課長、杉浦実市民協働課主幹、原宗之市民協働課係長、吉田大樹市民協働課主事

活動発表

海老江地域振興会 会長 波昌幸

射水市災害放送ボランティアの会 会長 伊藤良子

□会議概要

1 開会

2 議事

(1) 地域型市民協働事業について (中間報告)

委員 地域振興会の事務局体制について、事務職員の1.0人体制というのはもともと公民館主事のことであると思うが、公民館主事がどのように地域振興会の事務に関わっているのか見えない。地域振興会の事務と公民館主事の手務を分けることはできないのか。

事務局 5モデル地区の中でも温度差があり、活動が活発な海老江地区では1.5人体制となっている。公民館主事に対する地域振興会事務の時間外分については、交付金の運営費の中に見込んでいるので、地域の実情に応じて事務局体制を整

えている。今後は、活動が活発になるにつれて事務職員の負担が増えることから、2人体制を検討していく。

委員 地域振興会職員応援団について、多い地区には17人いるが、1人しかいない地区もある。もう少し地区ごとのバランスをとることができないのか。

事務局 職員の少ない地区には、行政センターの管理職以上の職員にお願いしたいと考えている。また、管理職以上の職員を対象としているが、すでに地域の中に入っている一般職員もいる。一般職員には自主的に参加してもらうようお願いしている。

委員 交付金の執行状況について、今のところ防犯灯修繕の執行率が低いということであるが、残額を防犯灯の新設に使用することは可能なのか。

事務局 例えば、水銀灯の防犯灯を新設する場合、修繕費とは違い金額が大きくなるので難しい。また、防犯灯の新設については、平成21年度から5モデル地区で実施できないか検討しており、現在、担当課で基準を作成している。

委員 自主的事業の交付金執行率が9月末現在で35%ということであるが、年度末の見込みを教えてください。

事務局 100%を見込んでいます。

委員 地域振興会の事務職員について、地域ごとに差はあると思うが、今後、共通の仕事を隣の地区と共同で行ったりすれば、事務量や人を節減することができるのではないかと。

事務局 そのようなことも考えられる。

委員 防犯灯の交付金について、年度末になっても余っていた場合は返還してもらうのか。

事務局 今年度は余っても、来年度は見込み以上に防犯灯が切れることも考えられる。また、交付金として交付しているため、返還してもらう必要はない。

○海老江地域振興会活動発表

委員 144名のボランティアの平均年齢を教えてください。

波会長 60歳を超えている。定年退職を迎え、年金生活者がほとんどである。ただし、下は16歳からいる。

委員 海老江地区はモデル地区の中でも進んでいる地区であるが、改善してほしい点などがあれば教えてください。

波会長 市からの公民館主事の賃金は1人分しかないが、海老江地域振興会では2人体制がほとんどである。過去に2人体制だったことがあるので、そのときと同様に地域からの要望がくる。ぜひ2人体制にしてもらいたい。

また、民間の息吹を導入して改革を進めてもらいたい。例えば、ゴミが出たらどうではなく、ゴミが出ないようにするためにはどうしたらいいかなど、一歩先を見据えて進めてもらいたい。改革を進める際には、お互いに痛みは伴うが、目標を持った痛みであれば、みんなが納得できるのではないかな。

委員 新興住宅地などがあると、一体感の醸成を図ることが難しいという話を自治会長から聞くことがある。これが実情ではないか。

波会長 まちづくりの原点というのは、その地域に対する愛情、誇りであると考えている。海老江の場合は、曳山が3本あることもあり、祭りが中心になっている。海老江にも団地があるが、参加してもらっている。その地域に対する愛情と誇りが大切である。

(2) 公募提案型市民協働事業について（中間報告）

委員 事業を継続する場合は、何年間実施するのか。

事務局 事業の継続は3年間を考えている。1年目は4分の3補助、2年目は3分の2補助、3年目は2分の1補助と考えている。ただし、継続期間中であっても自立できるようであれば打ち切りたい。

○射水市災害放送ボランティアの会活動報告

委員 補助金の使い道を教えて欲しい。

伊藤会長 放送の実費、研修費、ステッカーの作成等に使用している。

委員 FMいみずがあるパスコの耐震性は大丈夫なのか。予備の放送設備を考慮しておく必要があるのではないかな。

伊藤会長 予備の放送設備はないが、発動機を備えており、先日もボランティアの会で操作方法などを確認したところである。

委員 海岸沿いでは家庭内のステレオやカーラジオでもFMいみずを聴けない場合がある。災害時には、アンテナの小さなポータブルラジオで聞くことになるが、本当に聞くことができるのか。

伊藤会長 海岸沿いでは、鉄塔がFM電波を阻害して聞き取りにくい場合がある。コミュニティFMは最高出力が20Wに決められているので、距離が遠いほど聞こえなくなるのは仕方ない。

(3) 平成 21 年度 公募提案型市民協働事業について

委員 公募提案型市民協働事業で利益が出た場合はどうするのか。

事務局 利益を出してもらっても構わない。今年度実施事業の中でも、特定非営利活動法人水辺のまち新湊の事業は、チケット販売等で収入を得ている。補助事業であるので、清算して補助することになる。

・公募提案型市民協働事業審査会の審査員について

奥田会長から、今年度に引き続き奥田会長、野村委員、山口委員が審査委員になることが提案され、了承された。

3 その他

次回の射水市協働のまちづくり推進会議の日程について

日時 平成 21 年 5 月中旬

4 閉会

配布資料

会議次第、議題に関する資料

会議の公開又は非公開

公開